

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	プロジェクトマネジメント小委員会		主 査 名：小栗 新 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会		委員長名：平野吉信
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築プロジェクトのあり方が多様化・複雑化するとともに、設計専門家や建設会社等の果しうる役割も流動化し始めている現況を踏まえ、目的・必要に応じて建築プロジェクトのプロセス、組織、資源、調達等の各側面を最適化し、わが国のプロジェクト運営の信頼性を確立することを可能とするマネジメント方式および手法・理論的枠組みとあり方を検討し、国際的な大規模複雑建設プロジェクトにおけるわが国の課題と対応策について提言をとりまとめる。</p> <p>初年度：国際プロジェクトのマネジメントに関して国内外における実施事例を調査する。また、そこで実践または提案されている手法や理論的枠組、支援ツールなどに関する情報・資料を収集し整理する。</p> <p>2 年度：上記の活動を継続するとともに、信頼性の高いプロジェクトマネジメント方式に適用される手法・理論的枠組、支援ツール等について調査研究を実施する。</p> <p>3 年度：適用可能な手法や理論的枠組、支援ツール等を含めてプロジェクトマネジメントのリファレンスモデルを提示し、その実用性を検証する。</p> <p>4 年度：国際的な大規模複雑建設プロジェクトにおけるわが国の課題にもとづき、対応策を検討し提言としてとりまとめる。また、成果を出版物としてとりまとめるとともに、それにもとづく（国際）ワークショップを開催し、成果の普及展開を図る。</p>		
委員構成 (委員名（所属）)	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>主査：小栗新（アラップ）、幹事：西野加奈子（建築・住宅国際機構）、委員：安藤正雄（千葉大学）、浦江真人（東洋大学）、金山裕介（合同製鐵）、楠山登喜雄（フタバコンサルタンツ）、齋藤隆司（日本郵政）、関谷哲也（竹中工務店）、中岡一郎（大和ハウス工業）、肥田景明（日本設計）、平野吉信（広島大学）、古阪秀三（京都大学）、村田達志（山下 PMC）、山崎雄介（長寿命建築システム普及推進協議会）、吉田敏明（三菱地所設計）</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2015 年度予算	65,000 円	<p>ホームページ公開の有無：あり 委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/keizai/pm/</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>昨年度に引き続き事例・手法・ツールの収集を行ったが、リファレンスモデルを提示するまでには至らなかった。今年度の会合で得られた成果は以下のとおり：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手デベロッパー系列のCM部門が、複数企業の関わる大規模開発において果たすマネジメント業務に関する役割などについての知見を得た。 ・大手ゼネコンが東京オリンピック後の首都圏再整備やインフラの民間開放といったプロジェクトに対してどのようなスタンスをとっており、そこにどのようにマネジメントの視点を取り入れているかなどについての知見を得た。 ・某プロジェクトの計画・設計に直接・間接に関わった関係者の参加を得て、その経緯を時系列で検証し、プロジェクトマネジメントの観点で課題を確認した。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的に沿ったトピックでの適切なゲストスピーカーを特定すること 2. プロジェクト情報を開示いただくこと 3. プロジェクトごとの個別解から一般化可能な手法・枠組み・ツールを抽出すること

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。